

脳卒中には、脳の血管が詰まる脳梗塞と、血管が破れる脳出血・くも膜下出血があります。中でも脳梗塞は脳卒中の約4分の3を占めます。もし脳卒中を疑ったら、直ちに救急車で脳卒中の専門病院を受診することが、その後の経過を良くする第一歩になります。

専門病院では、脳梗塞が起きてから、**4時間半**以内なら、血栓（血の塊）溶解剤、8時間以内であればカテーテル操作を使い血栓を溶かし、血管のつまりを改善させる治療が可能となります。その後は、血液をサラサラにする薬で血栓をできにくくし再発予防につとめ、リハビリテーションを開始します。

今回は、どのような症状から脳梗塞を疑い、その後どう対応するかを解説します。

【脳梗塞の症状】

脳梗塞は 突然意識を失って倒れる病気だと思っていませんか？ 実際には、詰まる血管の太さや部位によって、これから述べるごとく症状とその起き方はさまざまです。

脳梗塞で最も多い症状は、半身の運動麻痺です。急に半身の手足に力が入らなくなったら、脳梗塞を疑うべきです。とくに手足と同じ側の顔の麻痺を伴う場合はなおさらです。

次は、言葉の障害です。ろれつが回りにくくなります（構音障害）。飲酒で酔った時の話し方に似ています。それとは別に、右半身の運動麻痺に伴って起きる言葉の障害は失語症と言いい、言葉が出しにくかったり、人の言うことを理解しづらくなります。

歩けなくなる、意識が低下する、半身がしびれるなどの感覚障害、めまいと吐き気、片目もしくは両目の視野の半分が見えづらくなるなども、脳梗塞の症状です。

これらは組み合わせあって起きる場合もあります。ただ軽症例では、片方の手先の動きや感覚の異常など、狭い身体部位だけの場合もあります。共通しているのは、大多数の脳梗塞の症状が突然に出現することです。

症状が、短い時間で改善し消えること（一過性脳虚血発作；数分から数時間）もありますが、様子を見ているうちに症状が悪化したり、他の症状も加わったり、一度消えた症状が再び現れる場合もあります。

【脳梗塞を疑ったら】

重症軽症にかかわらず、直ちに119番に電話して救急車を呼んでください。これは一刻も早く可能な限り、専門病院に搬送するためです。前述の脳梗塞の効果的な治療は、脳梗塞発症の早期にしか行えません。

【救急車が来るまでの対応】

患者さんに意識があるときには、すぐに周囲の人の助けを求め、その場で横にしてください。立ち上がったたり、動いたりすると、脳の血流が悪化し、脳梗塞が進行したり、倒れたり物にぶつかったりして怪我をするリスクがあるからです。

意識状態が悪ければ（⇒意識がないか、もうろうとしているときは）、気道がふさがらないようにし、誤嚥が起きないようにします。頭が前かがみ（前屈）にならないように、枕を使わず、肩の下にタオルなどをしいて、頭を後ろにそらせぎみに顎が上がった状態にすると、呼吸が楽になります。その間、患者さんから目を離さないようにし、おう吐しそうな時には、手足の動きが悪い側を上にして、身体を横に向けます。吐いた時に、吐物が気道に入るのを防ぐためです。意識が悪いと誤嚥性肺炎が起き易いのです。

症状が軽くても、自分で運転して病院に行かないでください。途中で症状が悪化・進行し、交通事故を引き起こす可能性があります。

【FAST】

脳梗塞を含む脳卒中をいち早く疑うためのスローガンFASTを紹介します。これは、脳卒中を強く疑うべき症状、顔の麻痺（Face）、腕の麻痺（Arm）、言葉の障害（Speech）の頭文字です。加えて、時間（Time）と競争し、出来るだけ早期に（FAST）治療を開始します。3つの症状の発病時間を念頭に、いち早く救急車で病院を受診しましょう。ぜひこのFASTを覚えてください。（書籍『小象の 元気！で行こう』第45話より）

自習室44の表 脳梗塞の症状

（以下の症状は脳梗塞以外でも起きます。急に起きた場合に、脳梗塞を疑いましょう）

1. 顔の片側が下がる、ゆがむ
2. 手足の力が抜ける
3. 言葉が出てこない、理解できない
4. めまいがする
5. 片足を引きずる
6. ふらふらして歩けない
7. 視野にカーテンがかかったようにものが見づらい
8. 物が二重に見える
9. 片方の手足がしびれる など

★ **FAST** を覚えましょう！

顔の麻痺（**F**ace）、腕の麻痺（**A**rm）、言葉の障害（**S**peech）の頭文字です。加えて、時間（**T**ime）と競争し、出来るだけ早期に（**FAST**）
覚えて日本語で言えば 「顔・腕・言葉・急げ！」

